別記様式２
○管理区評価調書

１　森林の整備に関する事項
（１）森林の整備
ア　森林資源の状況

区分			単位	計画期首	計画期末	増減
人工林	育成単層林	面積	ha	13,771	13,331	-440
		蓄積	千m3	2,436	2,464	28
	育成複層林	面積	ha	1,428	1,872	444
		蓄積	千m3	274	408	134
	計	面積	ha	15,198	15,203	5
		蓄積	千m3	2,710	2,873	163
天然林	天然生林	面積	ha	48,099	48,197	98
		蓄積	千m3	7,081	7,541	460
その他	未立木地等	面積	ha	2,971	2,868	-103
		蓄積	千m3	0	0	0
計		面積	ha	66,269	66,268	-0
		蓄積	千m3	9,791	10,414	623

※「計画期首」は前期計画の期首、「計画期末」は前期計画の期末（以下同じ）。

イ　計画量の実行状況

区分			単位	計画 (A)	実績 (B)	実行率 (B)/(A) %
伐採	人工林	主伐	千m3	108.7	120.3	111
		間伐	千m3	220.0	203.7	93
		計	千m3	328.7	324.0	99
	天然林	主伐	千m3	0.0	0.0	
		間伐	千m3	1.9	2.4	126
		計	千m3	1.9	2.4	126
	計	主伐	千m3	108.7	120.3	111
		間伐	千m3	221.9	206.1	93
		計	千m3	330.6	326.4	99
造林	人工林	人工造林	ha	664.0	780.0	117
		天然更新	ha	0.0	0.0	
		計	ha	664.0	780.0	117
	天然林	人工造林	ha	0.0	0.0	
		天然更新	ha	0.0	0.0	
		計	ha	0.0	0.0	
	計	人工造林	ha	664.0	780.0	117
		天然更新	ha	0.0	0.0	
		計	ha	664.0	780.0	117
路網 （開設）	林業専用道		km	5.0	2.3	46
	森林作業道		km	0.0	0.0	
	計		km	5.0	2.3	46

※「計画」は前期計画（以下同じ）の計画量である。

ウ　評価指標

（ア）伐採材積の実行率　（千m3、%）

計画	実績	実行率
331	326	99

※伐採実績総量の計画総量に対する割合

（イ）間伐面積の実行率　（ha、%）

計画	実績	実行率
3,244	2,448	75

※計画期間における間伐実績総量の計画総量に対する割合

（ウ）路網密度　（m／ha）

計画期首	計画期末	増減
6.6	6.7	0.1

※計画期首と計画期末における路網密度

（エ）人天別森林蓄積　（m3／ha）

区分	計画期首	計画期末	増減
人工林	178	189	11
天然林	147	156	9
平均	148	157	9

※人工林、天然林別のha当たり蓄積

（オ）育成複層林など多様な森林に誘導する人工林面積　（ha）

区分	計画期首	計画期末	増減
育成単層林	1,908	1,953	45
育成複層林	1,428	1,872	444
計	3,336	3,825	489

※5ha以下の単層林施業と複層林施業の合計実施面積

エ　課題（評価指標の分析等）

・伐採材積の実行率は、99%と、計画とおり実施。
・間伐面積の実行率は75%となったが、これは、傾斜地や沢地を除いた結果で、間伐が必要な林分について実施した。
・路網密度については計画とおり。
・育成複層林など多様な森林に誘導する人工林面積は、計画的に複層林施業を進めた結果、増となった。

オ　今後の対応方向

間伐面積の計画はUAVやGIS等を利用して、計画の精度を高める。

（２）森林の保全

ア　取組内容

エゾシカ対策として、冬期の林道開雪・除雪を西興部村で６kmほど行っており駆除の一役を担っている。また、カラマツの再造林施業を進めていることから、野鼠駆除面積も増えている。

イ　評価指標

（ア）エゾシカ森林被害実面積　　(ha)

前計画	現計画	増減
43.26	0.42	-42.84

※エゾシカによる食害等の森林被害実面積

「前計画」は前計画期間の前期、「今計画」は現計画期間の前期である（以下同じ）。

ウ　課題（評価指標の分析等）

被害調査によって面積は減っているが、積雪量等によって年によってばらつきがある。

エ　今後の対応方向

・エゾシカの被害は天然林が主だが、人工林の新植の被害も引き続き調査を行う。
・野鼠被害はカラマツ新植地周囲で予察調査を行っている。野鼠駆除（リンカS1）は引き継ぎ実施していく。

（３）林産物の供給

ア　取組内容

道有林材の利用促進に関する協定に基づき、北海道（オホーツク総合振興局西部森林室）、興雄地区森林育成協同組合、東京木工所(株)及び北海道石狩市の(株)丸三ホクシン建設と協定を締結しており、道有林材ブランドのトドマツ間伐材による桟木及び建築材を供給している。

イ　評価指標

（ア）協定販売件数（延べ）　　(件)

前計画	現計画	増減
9	8	-1

※協定販売による契約件数

ウ　課題（評価指標の分析等）

現計画の協定販売数は、全計画に対し１件マイナスだが、ほぼ同数で推移しており、協定販売のによる供給により道有林間伐材等の利用やのPRを実施している。

エ　今後の対応方向

北海道（オホーツク総合振興局西部森林室）、興雄地区森林育成協同組合、東京木工所(株)及び北海道石狩市の(株)丸三ホクシン建設との協定は、今後も継続の予定で協定販売は、現計画と同等の件数で計画する。

（４）地域と連携した森林施業等

ア　取組内容

前計画、現計画とも取り組んでいなかった。

イ　評価指標

（ア）共同施業等の件数　（件）

前計画	現計画	増減
0	0	0

※共同施業、共同出荷、路網等の共同利用の実施件数

ウ　課題（評価指標の分析等）

管理区と隣接する民有林との計画の照らし合わせや、打ち合わせを行っていなかったため、共同施業が実施されていなかった。

エ　今後の対応方向

当森林室普及課コーデネートのもと、次期計画かかる共同施業実施に向け、オホーツク中央森林組合と打ち合わせを実施。

（５）森林施業の低コスト化

ア　取組内容

機械地拵可能箇所については、積極的に実施したしている。また、コンテナ苗についても導入している。

イ　評価指標

（ア）機械作業を前提とした人工林の造成面積（ha）

前計画	現計画	増減
5	107	102

※機械作業を前提とした人工林の造成面積

ウ　課題（評価指標の分析等）

グラップルレーキやマルチャー等の地拵機械が導入されたことや、積極的に機械地拵を実施したことにより大幅増となった。

エ　今後の対応方向

低コストを推進するため、機械施工可能な箇所は機械地拵とコンテナ苗植栽を進め軽労化、低コスト化を実施していく。

（６）林業事業体等の育成

ア　取組内容

林業事業体の計画的な雇用の確保や設備投資等を促進するため、長期安定供給販売を実施している

イ　評価指標

（ア）長期安定供給販売量の割合　（量：m3、割合：%）

区分	計画期首	計画期末	増減
総販売量	61,783	84,400	22,617
長期安定供給販売量	4,441	7,900	3,459
割合	7	9	

※立木販売総量に対する長期安定供給販売量の割合

ウ　課題（評価指標の分析等）

期首計画より期末の割合が増えているが、現計画の総販売量に対する長期安定供給販売量は９％となっている。

エ　今後の対応方向

次期計画も林業事業体の雇用の確保や設備投資を強化するため、長期安定供給販売量は維持していく。

2　森林の管理に関する事項

（1）取組内容

道有林野の効率的・効果的な管理を行うため、林道ゲートの開閉、林野火災予防の啓蒙巡視、林道巡視及び軽微な補修、境界標の保全維持などについて、(一財)北海道森林整備公社に森林管理業務を委託している。また、林道ゲートの補修・修繕は職員により毎年行ってる。

（2）評価指標

ア　林野火災の発生件数　（件）

前計画	現計画	増減
0	1	1

※林野火災の発生件数

（3）課題（評価指標の分析等）

当管理区雄武町で令和元年５月２６日に林野火災が発生し２１５haを焼損し６月１９日に鎮火（発生原因は不明）近年にはない大規模の林野火災であった。

（4）今後の対応方向

林野火災予防の啓蒙巡視に取り組むとともに室内緊急連絡体制の周知徹底を実施している。、被害箇所については植栽・かき起こしを行い早期に森林復旧を実施する。

3　森林の活用に関する事項

（1）取組内容

当管理区内のポロヌプリ岳・ウエンシリ岳・ピヤシリ湿原の登山や、ほっかいどう企業の森林づくりの協定に基づく活動（溝端紙工印刷(株)・ＤＣＭホーマック(株)）、「ピアノの森」の協定。木育マイスターと連携した木育活動等を取り組んでいる。また、北海道エゾシカ管理計画による個体数調整のためのエゾシカ捕獲の入林者の受入体制を整備している。

（2）評価指標

ア　入林者数　（人）

区分	前計画	現計画	増減
レクリエーション、調査・測量等	1,381	1,370	-11
狩猟	90	345	255

※計画期間における道有林野への入林者数

イ　木育活動参加人数　（人）

前計画	現計画	増減
659	157	-502

※道有林野をフィールドとした木育活動等の参加人数

（3）課題（評価指標の分析等）

令和２年３年と新型コロナウィルスによるイベント中止に伴い参加人数が激減した。

（4）今後の対応方向

町村長からの要望を受け、管理区内の滝巡りツアーを計画。木育マイスターと連携した木育活動を強化。

4　道民との合意形成

（1）道民意見の把握

ア　目的

道有林の役割や業務内容などに対する認識を深めていただき、道有林の取組への理解や参加を得て、地域住民の方々の意見を反映させながら森林の整備・管理を進めていくため。

イ　調査方法

興部町・雄武町・西興部村の住民などを対象にイベント等の開催時に実施。

ウ　評価指数

（ア）道有林の管理運営に対する満足度　（%）

区分	満足	まあ満足	どちらでもない	少し不満	不満	計
回答数	15	8	4	0	1	28
割合	54%	29%	14%	0%	4%	100%

※地域住民へのアンケート調査結果より

エ　課題（評価指標の分析等）

道民意見の反映状況は森林室が行っている森林の整備・管理について8割の方々が理解されました。しかし２割の方は「どちらでもない」、「不満」の回答でした。

（2）管理区評価現地説明会の開催

開催年月日	主な内容	参加人数	主な参加者
2021年9月10日	バイオマス燃焼灰を活用した路網整備	9	業界関係者

5　総括（森林の整備・管理に関する課題と今後の方向性）

人工林施業を維持・推進する林分と混交林化する林分を分け、法正林を目指し持続可能な施業を行う。